県小中学教研会報

発行　石川県小中学校教育研究会
金沢市尾山町10番５号
石川県文教会館内
電話(076)262－4916
編集　石川県小中学校教育研究会
広報部
印刷　株式会社　山　越

ご挨拶

石川県小中学校教育研究会
会長　篠原　忍

石川県小中学校教育研究会第九回研究大会（オンライン講演会）にご参加いただき、誠にありがとうございます。また、石川県教育委員会、石川県市町教育長会をはじめ、日頃より本研究会の活動を支えていただいております諸機関の皆様にもこの場を借りて、心より感謝を申し上げます。

本研究会は、本県における小中学校の教育の質の向上を目的とする十六の各郡市学校教育研究会、各教科等の研究会、十四団体が結集して平成二十四年六月に設立されました。運営を担当する事務局には、各構成団体より役員が選出されています。

県内の小中学校教職員が、一堂に会して教育研究会を開催するとともに、研究会のネットワークを県内全域に広げ、授業研究や情報交換等の教育研究活動を活発に行うことで、本県小中学校の教育の充実と児童・生徒の学力向上に貢献したいというのが設立の趣意です。

平成二十四年の設立以来順調に研究実践を重ねて参りましたが、昨年度は新型コロナウィルス感染症対策のため、第八回研究大会は中止となりました。年間を通じた各教科等の研究会も十分に実施できない状況でした。

今年度も五月に「まん延防止等重点措置」が発出され、石川県地場産業センターに一堂に会する形での開催は断念せざるを得ませんでした。「授業研究文化の継承や研究会のネットワークを県内全域に広げ本県小中学校の教育の充実に貢献する」という本研究会の設立趣旨に則り、なんとか形を変えての開催ができないかと模索を続け、ライブ配信での講演会を実施することになりました。

さて、科学技術と社会の関わりが深化・複雑化している知識基盤社会では、「正解」の追求とともに、状況における「最適解」を多様な他者とかかわりながら、創造的に生み出すことが、より必要とされる時代でもあります。

このような時代を生きる子どもたちに身につけさせる資質・能力として、学習指導要領では、「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力等」の育成だけでなく、粘り強く取り組む力や対人関係に対応する力をも含む「学びに向かう力や人間性等」の涵養が示されています。このような資質・能力を身につけた子どもたちがかかわりを通して、多様な視点や発想を共有することで、創造性をさらに発揮することができます。

激動の時代を創造的に生きる子どもたちのために、今後も学教研は、研究の深まりと県内全域への広がりに寄与する教育研究会であり続けたいと思います。

コロナ禍の中、研究大会がオンラインで実施されました。

記念講演

潤いのある学級・学校づくりの理論と実践

鳴門教育大学教職大学院教授　久我　直人 氏

講演内容要旨

・学校は変えられるか？→YES　条件は２つある。①効果のある指導をすること②組織的に行うこと　これらは、働き方改革につながる。働き方改革とは生産性を上げることである。優れたパフォーマーの暗黙知を形式知化し、組織で共有することで効果のある学校づくりを行っていく。

・学校とは、学力保証（Ｉの力）と社会性の醸成（Weの力）を図る場であり、人・社会の中で自己実現していける存在の育成を担っている。夢の実現、幸せのために学ぶ場である。

・第３期教育振興計画には、自主・協働・創造が掲げられており、今の主体的・対話的で深い学びに合致している。

・子どもの頑張りと優しさを発揮させる条件としては、自分に対する信頼が土台になる。しかしながら自分への信頼の欠如が意欲格差や学力低下等の学ぶ力の弱さといじめや問題行動等の他者意識の脆弱化につながり、生きる力の矮小化になっている。個々の問題への対応は枝葉の戦いであり、先生方が消耗し働き方改革にも反する。子どもの意識、内面への働きかけが大切である。

・自分に対する信頼があると、たくさんの矢印が伸び、結果として学習意欲と生活規範、つまり学力向上と社会性の醸成につながる。しかしながら、自分に対する信頼からは直接生活規範へはつながらない。また、その大元となる保護者への信頼が揺らいでいる現状がある。このような状況の中で大切にしたいことは、周りの人から認められているという勇気づけと聞くしつけである。愛情不足が共感力の低下、ネガティブ思考につながり、あきらめ・言い訳といった行動に表れる。

・日本では、「自分に価値がある」に当てはまると回答しているのは7.5％しかおらず、否定的回答が６割もいる。日本の教員は「生徒に勉強ができると自信を持たせている」は17.6％に過ぎず、参加国平均を大きく下回っており、教員の自己効力感は低い。学校にはたくさんの課題があるだろうが、一点突破でいくならば、「人のことを大切にして聴く」がよい。

・確かな学力をはぐくみ、まとまりのある学級を作るには、①わかりやすく教え、しっかりしつける確かな導き　②自己決定の場を設定し、じっくり考えさせる自学・自治　③人対人として向き合い、たっぷりほめる勇気づけ「教えて・考えさせ・評価する」３ステップ教育が大切である。１対35のような行動制御型の指導は大変である。子どもに問い返し考えさせ、価値づけるような価値観を育てる、考える子を育てることか大切である。はじめは、１つ１つの問題を丁寧に取り上げ判断する価値や考え方を問い返しながら育成していく必要がある。

・不適応の根底には、不信・不安や自分が大切と思えないといったようなことがあり、自己不信から孤立感を覚え内面に向くタイプ①と不満・イライラを他者へ向けるタイプ②に分けられる。①タイプ：不登校、無気力等、学力低下につながりやすい。大丈夫？といった声かけのような情緒的サポートが有効。②タイプ：いじめ、暴力等の規範意識の低下につながる。被害者意識が強く、なぜ俺ばっかりと思いがちだが、任されると頑張る面もある。愛着形成は挽回可能である。愛されている確信がその子の社会性を決める。昭和は３世代家族、平成は核家族、令和は共働きといったように、０～15歳の子どもたちへの「おいしかったね」「痛かったね」というような共有体験や大人のまなざしが低減している。これが愛着形成の脆弱化につながっている。これが共感力の低下、ネガティブ思考となり、指導に対して謝れなかったり人のせいにしたりありがとうが言えない行動に表れる。どのクラスにも、聞いたら一言で動くことができる子、説明すれば動ける子、寄り添わないと動けない子がいる。この寄り添わないと動けない子に対してボイスシャワーを日常的に担任だけでなく学年全体でかけると良い。自分への信頼が学習意欲の向上につながり、教師への信頼が規範意識の醸成につながる。

・勇気づけにも３段階ある。①安全・生理的欲求：存在そのものを受容（よくきたね、元気）Ｉメッセージがよい②承認・所属欲求：頑張りや優しさを承認（ありがとう、助かる）Weメッセージがよい③自己実現欲求：頑張りや優しさの過程・行動を価値づけるYouメッセージがよい。自己肯定感・自己有用感（自分は一人の大切な人間である）へのアプローチが有効。教師に求められる力は子どもの良さに気づく目である。心理的安全性（個人が感じる集団への信頼）を高めると集団としての自律性や集団規範が高まる。言葉の乱れ（いやなことを言われる等）を制御すると心理的安全性が高まる。認め合いができると集合の活力が高まる。

（効果ある指導例）

①「自分の良さ」確認シート：自分が思う自分の良さはなかなか書けなくても、友達から聞いた良さはある。

②聞くことの徹底：しつけの３段階　モデリング（教えて）コーチング（考えさせ）フィードバック（価値づける）

③聞くことのReスタート指導　土台：①価値の共有　②形の共有トレーニング：できていたら褒め、できていなかったらやり直し聞き方スキルの指導：アクティブラーニングのどの場面でも①最後まで　②頷きながら　③同じ・違い・なるほどをみつける④質問を考えながら

・潤いのある職員室文化、先生方の安心感・信頼感が大切である。・先生方を勇気づけ、学びのある職員室文化へ。

講演の感想から

・改めて、「人のことを大切にして聴くことの大切さ」について実感した。「みんなの聴き方にやさしさを感じたよ」「友達のそんなよさに気づけるなんて人として立派だね」「大人の先生よりえらいね」等、子どもをほめて認めていく教師の言葉の感性というかセンスのようなものを磨いていく必要がある。その土台として、教師相互の自然なボイスシャワーがある潤いのある職員室文化を醸成していきたい。

・組織的に取り組むことで、「小さなエネルギーで大きな効果」を生むことができるとわかりました。また、内面へのアプローチをして、自分に対する信頼を上げることが、学力向上や生活規範の向上につながると学ぶことができました。そして、たくさんのことを一度にねらうのではなく、「一点突破」が有効だと知り実践に活かしていきたいと思います。

・久我先生が言われていた、「愛着不足は挽回できる」という言葉に、教師としてとても勇気づけられました。これまで、子どもたちのために、やってあげたいことややらなければいけないと思っていることがとても多く、多忙感を感じていることもありました。全部のことをしていく前に、まずは子どもたちが自分に対する信頼感をもてるようにしていこうと思いました。そのために、教師の勇気づけの言葉をかけてあげること、子どもたち同士での相互の褒め合いをしていこうと思いました。

・今回の講演を聞いて、本校の取り組む方向性は正しいと確認することができました。自信をもって今後も取り組んでいきたいと思います。「一番勇気づけの言葉が欲しいのは教員かもしれませんね」という言葉がとても心に残りました。中堅教員として先輩教員と若手教員をつないでいけるように、自らポジティブな言葉かけを生徒にも教員にもしていきたいと思います。

《研究会紹介》

小松市学校教育研究協議会

本研究会は「学校教育の研究ならびに教職員の研修を図り、本市教育の発展を期すること」を目的とし、運営されています。

現在小学校二十三校、中学校十校、会員六百八十名から構成され、教科等研究会が十八部会、専門委員会が三部会で活動を推進しています。

【教科等部会】

国語・司書・書写・社会・算数数学・理科・生活総合・音楽・図工美術・保健体育・技術家庭・英語・道徳・特別活動・特別支援教育・学校保健・学校事務・栄養

【専門委員会】

学校給食委員会・視聴覚委員会・図書館協議会

研修会は年五回実施予定され、例年第一回目は小松市小中学校全教職員が一堂に集まり、市長や教育長の講話を伺う貴重な機会となっていましたが、コロナ禍により、昨年は五回全部中止、今年度は一・二回の中止を余儀なくされました。

それでも七月末に何とか第一回の研修会を開催することができ、組織会・年間計画の決定に加え、教科ごとの第一回研修会を実施し、それぞれ学びを深める機会となりました。

コロナ禍の中、学びの歩みを止めることなく、研修を深めるにはどのような工夫ができるか、それぞれの部会ごとに工夫を重ねながら計画を立案しています。

コロナ禍の中での研修の一例を紹介します。

・指導主事講話
・模擬授業
・実践交流、授業紹介
・ＮＩＴＳや講師によるオンライン講習
・施設見学
・ブロック別研修

例年なら、どの部会も研究授業を中心とした研修が行われていましたが、今年度はコロナ禍の中ということもあり、それぞれの部会で模擬授業やオンライン研修等、工夫を凝らした研修会が計画されています。

本研修会の実施を通して、教科や職種における学びを深めると共に、学校や校種を超えた人のつながりが構築されていることも大きな意義の一つです。例えば、例年行われている授業研究では、授業者だけで教材研究を行うのではなく、同じ教科研究会のメンバーによる授業検討会への自主参加や先行授業の実施など、会員の主体的な関わりによって、各研究会の中で学校間、校種間を超えた多くのつながりが生まれています。教科や職種の学びを深めると同時に、新たな人のつながりを深めていく体制を継続しているのが、小松市学校教育研究協議会の伝統であると思っています。今後も、子どもたちの確かな力を育むために、自ら学び続ける教職員集団でありたいと願っています。

（文責　小松市立安宅小学校　広見　理恵）

石川県音楽教育研究会

本研究会は、昭和六十三年それまで「県児童発声教育研究会」「県器楽教育連盟」「金沢市小学校管楽器研究会」「県音楽授業研究会」「金沢市小学校ＤＴＭ研究会」など独立して活動してきた研究団体が、音楽教育に携わる者としてお互いに切磋琢磨し、情報を共有交換しながら音楽の授業力を高めていくという大きな目標のもとに集まり発足

しました。以来三十年以上、毎年行ってきた研究大会を核として研究を積み重ねてきました。

この間、研究主題や音楽教育へ向き合うためのよりどころとしてきたのは、「ときめき、ゆらぎ、そしてきらめく」という言葉です。音楽のよさを感じ、表現したいという気持ちをおこさせる「ときめき」、感じ取り、工夫し、求める表現できるように思考していこうとする「ゆらぎ」、友達と心を合わせ、音楽を全身で表現する「きらめく」、という三つのことを授業や発表の場で大切に取り組んできました。

平成六年の全日音研全国大会、平成十三年の東海北陸大会の開催を経て、平成二十九年、金沢市で行われた東海北陸音楽研究大会ではこれまで石川県音楽教育研究会が大切にし、積み上げてきた土台に、新学習指導要領の重点を踏まえて県内外のたくさんの音楽教育に携わる方々と研鑽を深めることができました。

本研究会では、小学校において発声教育研究部会、授業研究部会、器楽管楽研究部会が、中学校では声楽研究部会、器楽教育部会、創作研究部会、鑑賞教育研究部会、授業研究部会がそれぞれ研修会や発表の場を通して石川の子供たちの豊かな感性を育てるために研究を続けてきています。

コロナ禍で音楽教育は今までにない非常に厳しい状況です。しかし、この状況で、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関われる力を育む力をどう作っていくかこれまで積み上げてきた実践をベースにしながら新たな視点、アイディアで取り組みを考えていく機会にしなければならないと思っています。そうした中、昨年度、やむなく延期となった石川県音楽教育大会小松大会が、十一月二十六日「聞き合い　伝え合い　わかちあう音楽の喜び」を新たな研究主題とし行われます。たくさんの音楽教育に関わる方、関わろうとしている方々の参加をいただき、新たな一歩を進めたいと会員一同願っています。

（文責　白山市立東明小学校　徳井　祐）

令和三年度開催・開催予定の研究発表会

◆県書写教育研究会
・十一月十五日(月)
・川北町

◆県社会科教育研究会
・十月二十日(水)
・金沢市立押野小学校、清泉中学校、金沢伏見高等学校

◆県理科教育研究大会
・十月八日(金)
・オンライン開催

◆県音楽教育研究大会
・十一月二十六日(金)
・小松市芸術劇場うらら

◆県図工・美術教育研究大会
・十一月二十六日(金)
・野々市市フォルテ、野々市市立野々市小学校

◆県学校体育研究会大会
・十一月十六日(火)
・輪島市文化会館、輪島市立鳳至小学校、輪島中学校

◆県小学校家庭科教育研究会
・十一月九日(火)
・加賀市立庄小学校

◆県学校道徳教育研究大会
・加賀市、金沢市、七尾市、珠洲市

◆県小学校生活科・総合的な学習教育研究大会
・十月二十二日(金)
・白山市立旭丘小学校

◆県特別活動教育研究会研究大会
・十一月十七日(水)
・津幡町立津幡小学校

◆県小中学校視聴覚教育研究協議会研究大会
・十一月十六日(火)
・金沢市立夕日寺小学校よりオンライン、鳴和中学校

◆県学校図書館研究大会
・十月二十六日(火)
・石川県文教会館

◆県特別支援教育研究大会
・十一月五日(金)
・白山市立朝日小学校、明光小学校、広陽小学校よりオンライン

◆石川国語の会
・十二月四日(土)
・金沢市立四十万小学校

◆県小学校社会科教育研究会
・十二月四日(土)
・金沢市立杜の里小学校

◆県小学校体育研究会
・十二月二十五日(土)
・金沢市立三和小学校

◆県中学校技術・家庭科研究大会
・十月四日(月)
・県女性センター

令和三年度役員

会長	篠原　忍	(兼六小)
副会長	羽場　政彦	(野田中)
〃	河本　隆明	(館野小)
〃	川村　聡子	(向本折小)
総務部長	端野　久直	(四十万小)
研究部長	中川　佳美	(長田町小)
研究副部長	四十住基子	(三崎中)
調整部長	野本　武志	(石川小)
調整副部長	松井　敏史	(田鶴浜小)
広報部長	徳井　祐	(東明小)
広報副部長	金津　美紀	(庄小)
会計部長	前川　明美	(高岡中)

編集後記

コロナ禍の今、やめることの勇気とつなぐことの責任ということについてよく考えるようになりました。昨年度は学教研に属している多くの研究団体が予定していた研究会を中止しました。熱い思いをもって準備してきた方々はとても残念であったことと思います。会長をはじめ役員は決断せねばなりません。熱い思いを知っていればいるほど、その決断には大きな勇気がいります。オンライン等様々な工夫を講じて、その熱い思い、積み上げてきたものをつなごうとした実践もいくつもありました。学校行事にも同じことが言えます。働き方改革は重要です。しかし、やめるだけではない、子どもたちの成長のために続けてきたその思いをつないでいかねばならない。そういう責任を負っていかねばならないと思っています。この広報がその繋ぎに寄与するのであることを願っています。

（文責　広報部　徳井　祐）